

TransPrime Newsletter

Vol. 7 (December 2015)

株式会社トランスプライム

発行責任者 倉増 一

目次

1. -gram, -graph, -graphy
2. 語源散策(7)absorb, adsorb
3. 似たもの同士(7) adjacent と adjoining
4. PCT 出願における直訳の範囲(7) 日本語独特の表現の処理
5. 翻訳者に必要な資質(6) 技術理解力の向上
6. トランスプライム主催のセミナーのご案内
7. 翻訳サービスのご案内
8. 編集後記

1. -gram, -graph, -graphy

学生時代、有機化学研究室に見慣れぬ装置がありました。その教授が、得意げに「これはガスクロマトグラフという分析装置です」と話していました。

会社に入って、研究所に配属されて、私の実験室には「熱分析室」、隣の実験室には「分離分析室」という名前が付いていました。分離分析室では何台かのガスクロマトグラフが稼働していました。

何年かして、私は熱分析から液体クロマトグラフの担当に変わりました。それまであまり気にしていなかったのですが、仕事をするにあたってクロマトグラフの意味を正しく知っていた方がよいと思い、調べてみることにしました。

クロマトグラフ(chromatograph)は「色で識別する装置」という意味を持っています。クロマトグラフ法あるいはクロマトグラフィー(chromatography)はその方法を意味します。クロマトグラム(chromatogram)はその方法で得られたチ

ャートあるいは結果を意味します。いずれの場合も形容詞は chromatographic となります。

クロマトグラフィーの歴史は、1906年にロシアの植物学者 Tswett が植物色素を分離させる方法の発見に始まります。抽出した色素を、立てたカラム（ガラス管の中に炭酸カルシウムを詰めたもの）の上に置き、上から石油エーテルを流したところ、色の異なる吸着帯として分離されました。このことから”色の記録”という意味で、ギリシャ語の Chroma（色）と Graphos（記録）より Chromatography（クロマトグラフィー）と呼ばれるようになったのです。

このように、元来はクロマトグラフィーは混合物を分離し色で検出していたのですが、分離方法も種々の方法が開発され、一方で検出方法も色だけではなく、紫外線、熱伝導、屈折率など色とは関係のないものが実用化されるようになりました。その結

果、クロマトグラフィーの意味も当初の意味よりは広くなりました。

日本語では、最初から「クロマトグラフィー」と呼んでいたようです。今では、その意味を詮索することもなく、一分析手段として日常使用されています。

ここで、タイトルに戻ります。つまり、これら3つはそれぞれ別の意味で使用されているのですが、日本語ではこれらを明確に使い分けられていないように思われます。

Liquid chromatographic process は liquid chromatography と同じ意味で「液

体クロマトグラフ法」(略して「液クロ法」)とすべきなのですが、「液体クロマトグラフィー法」のような表現がよく生み受けられます。これだと方法がダブっています。

翻訳者は、単に言葉を置き換えるのではなく、言葉の意味もよく理解して訳さなければならないことをこのような単純なケースからも学び取ることができます。

(倉増 一)

2. 語源散策(7) absorb, adsorb

特許翻訳をやっていれば一度は、「あれ？absorption と adsorption、どちらが吸収でどちらが吸着だったかな？」と迷ったことがあるのではないのでしょうか。まず、この二つの単語の語源を探ってみましょう。

この二つの単語の動詞形、absorb、adsorb に共通する-sorb はラテン語 "sorbere" を起源とし、"suck in, swallow" の意味があります。

absorb (吸収する) の接頭辞 ab- は "away from (～から離れて)" を表しています。そのため、何を swallow するのか、その対象が目的語として置かれます。同じ ab- の接頭辞が付く単語としては、ablation (個体の表面喪失、除去、切除) や abnormal (異常)、abarticulation (脱臼) などが挙げられます。全て away from のイメージが湧く単語ですね。

一方、adsorb (吸着する) の ad- は "toward (～の方へ)" を意味します。したがって、どこへ swallow されるのか、その対象が次に続きます。同じ ad- の接頭辞が付く単語としては、adaption (順応)、admolecule (吸着分子) adhesion (接着) などがあります。

吸収・吸着の現象の違いを考えてみましょう。吸着は物質がその一部で二相の界面にくっつく現象であるのに対し、吸収は物

質の全体がバルクに取り込まれる現象です。例えば冷蔵庫のにおいを取るために入れる消臭活性炭は、においの気体分子が炭の表面積に吸着することで脱臭効果を発揮します。家庭用除湿剤の原料は固形の塩化カルシウムで、この物質は水分を吸収して液状になります。

とはいえ、どこまでが吸着でどこからが吸収なのか、その境目がはっきりあるわけではありません。そこで、absorb と adsorb を両方含む sorb という単語が誕生しました。日本語では「収着」と訳すことが多いようです。主に化学やバイオの分野で使用され、英英辞典にも "take up a liquid or a gas either by adsorption or by absorption" と定義があります。Google Patent などでも sorb/sorption を調べるとたくさん用例が出てきますので、これらを参考にして上手く使いこなしたいですね。

それでは、この Transprime Newsletter が特許翻訳者の皆さんの何かのお手伝いになれば祝着至極に存じます。

参考文献：

英語の語彙辞典 梅田修／大修館書店
科学英語語源小辞典 前田滋／井上尚英
(松柏社)

(桑田美穂)

3. 似たもの同士(7) adjacent と adjoining

オンライン英英辞書 Merriam-Webster で単語を引くと定義の他にも "Synonym Discussion" という同義語に関する情報が記載されていることがあり読んでみると面白いです。今回は "adjacent" の頁に記載されている同義語を紹介します。

Synonym Discussion of ADJACENT

adjacent, adjoining, contiguous, juxtaposed mean being in close proximity. adjacent may or may not imply contact but always implies absence of anything of the same kind in between <a house with an adjacent garage>. adjoining definitely implies meeting and touching at some point or line <had adjoining rooms at the hotel>. contiguous implies having contact on all or most of one side <offices in all 48 contiguous states>. juxtaposed means placed side by side especially so as to permit comparison and contrast <a skyscraper juxtaposed to a church>.

(<http://www.merriam-webster.com/dictionary/adjacent>)

以下要約です。

adjacent	接触・非接触の両方の場合を含む。
adjoining	点または線で必ず結合・接触している。
contiguous	一辺の全てまたはほとんどで接触している。
juxtaposed	比較・対比がしやすい形で横に並べられている。

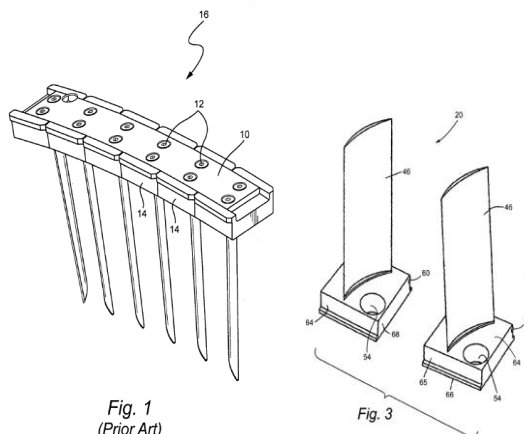
これらは日本語では全て「接する」とすることができますが、定義には微妙な違いがあるようです。中でも adjacent と adjoining は特許で頻繁に使われる単語ですが、しばしば混同して用いられていま

す。ちなみに adjoining は adjoin という動詞から派生した形容詞です。

以下の例を見ると二つの違いがよくわかると思います。

FIG. 1 is a schematic perspective view from below showing a prior art strap method for adjoining adjacent stator vane units; (US2009041580)

【図1】隣接する静翼ユニットを結合するための先行技術による固定方法を示す、下方から見た概略斜視図。(特願 2008-197126 (改))



ここでの "adjacent stator vane units" は、最も近い位置関係にある隣り合わせの二つの静翼ユニットを指し、接触しているかないかは問題視されていません。"adjoin" はそれらの静翼ユニットを完全にくっつける、という意味で使われています。

余談ですが、adjacent が「近い側の」を指すのに対し remote は「遠い側の」を指し、一緒に使われることも多く、セットで覚えると便利です。

弊社主催セミナー「位置・方向の表現」でもこの点について詳しく述べていますので、興味のある方は是非ご受講ください！

(南崎友美)

4. PCT 出願における直訳の範囲(7) 日本語独特の表現の処理

明細書には辞書で解決することのできない独特の表現があります。例えば、「一方」、「他方」は非常に多くの明細書に見られます。これに相当する英語は one と the other ですが、そうでない場合もあります。

例 1 : また、タスク処理システムはネットワークに接続された少なくとも 2 つの情報処理装置をさらに備え、前記受付判定プロセッサは前記一方の情報処理装置に設けられ、前記タスク実行プロセッサは前記他方の情報処理装置に設けられる。

この日本語には論理矛盾があります。情報処理装置は 2 つ以上あり、そのうちの 1 つに受付判定プロセッサが、他の 1 つにタスク実行プロセッサが設けられるのでないと論理に合いません。従って、日本語を次のように書き換える必要があります。

日本語の書き換え : また、タスク処理システムはネットワークに接続された 2 台以上の情報処理装置をさらに備え、前記受付判定プロセッサは前記情報処理装置のうちの 1 台に設けられ、前記タスク実行プロセッサは前記情報処理装置のうちのもう 1 台に設けられる。

訳例 1 : The task processing system further includes **two or more information processing units** connected to a network. The reception processor is provided in **one of the information processing units**, and the task executing processor is provided in **another one of the information processing units**.

訳例 2 : The task processing system further includes **two or more information processing units** connected to a network. The reception processor is provided in a **first one of the information processing units**, and the task executing processor is provided in a **second one of the information processing units**.

訳例 1 で、それぞれが既出の場合は **the one of the information processing units** と **the other one of the information units** となります。一方訳例 2 では、既出の場合は **the first information processing unit** と **the second information processing unit** で表現できるので、簡潔かつ明瞭になります。

情報処理装置が 2 台だけの場合は次のようになります。

訳例 3 : The task processing system further includes **two information processing units** connected to a network. The reception processor is provided in **one of the information processing units**, and the task executing processor is provided in **the other of the information processing units**.

このケースではあえて、first と second を使う必要がないように思えますが、first と second を使用することで既出の場合の表現が簡潔明瞭になることに変わりありません。

これよりも、複雑なケースでは、最初から first と second で表現する方が無難です。

(続く。倉増 一)

5. 翻訳者に必要な資質(6) 技術理解力の向上

特許翻訳や技術翻訳における誤訳の最大の原因は技術理解力の不足によるものです。この業界に入ったときに、私の英文をチェックしてくれたのはアメリカ人の弁護士でした。非常にがっちりした英文を好む人で、きちんとした英文を書くように指導されました。

私の英文を読んで、最初に何度か指摘されたのは「この文は、文法は合っているが意味が通じない」というものでした。この指摘を受けて、私自身は自分の書いた英文のチェックの仕方を根本的に変えました。

仕上がった英文を、翌日の朝に速読してチェックすることです。このときに、書かれている内容が技術的に理解できるか、という観点で読み直します。速読で自分が理解できない文章は他人には容易に理解できないという前提です。

英語に限らず、会社勤めをしているときに、私が起案した文章を社内で議論すると、自分では想像もしない解釈をする人が多くいることに愕然としたことがあります。そのような曖昧な文章を書いてはいけないことを何度か経験しました。

実際に、明細書の翻訳をしていると、理解困難な文章によく出会います。そのような場合は、論理的思考で読解するしかありません。手がかりになるのは技術のバックボーンです。

私は企業の知財部に長年在籍し、新規事業部門の権利化業務を担当しました。新規事業はいろいろな分野に及ぶので、時間を見つけてはそれらの分野に関する技術の本を読みました。このときの技術知識の蓄積が、翻訳業界に入ってどれほど役に立っているか分かりません。

今でも、自分にとって新しい分野の特許を翻訳する場合には、その技術を正しく理解するようにしています。そうすることにより、用語も自ら決まってくる。

翻訳の際に用語探索に終始しているといつまでたっても技術を正しく理解することができません。訳語の調査と合わせて技術も理解するようにすることで誤訳を防ぐことができます。

翻訳者の皆さん、もっと技術に興味を持ってください。

(倉増 一)

6. トランスプライム主催のセミナーのご案内

近日開催予定のセミナーは以下の通りです。

場所	日程	曜日	セミナー名
東京	2016/1/29	金	特許英語マスターシリーズ パートⅢ 「前置詞完全制覇」
大阪	2016/2/19	金	特許英語マスターシリーズ パートⅣ 「形容詞・副詞・接続詞・関係詞」(仮称)
大阪	2016/2/20	土	英文クレーム作成・翻訳のポイント (講義編)
東京	2016/3/25	金	特許英語マスターシリーズ パートⅣ 「形容詞・副詞・接続詞・関係詞」(仮称)
名古屋	2016/5/20	金	「英文クレーム作成・翻訳のポイント」講義編
名古屋	2016/5/21	土	特許英語マスターシリーズⅣ 形容詞・副詞・接続詞(仮称)
東京	2016/6/18	土	特許英語マスターシリーズⅡ 動詞
東京	2016/7/22	金	主語の決め方
東京	2016/8/27	土	位置・方向の表現
大阪	2016/9/2	金	主語の決め方
大阪	2016/9/3	土	直訳の範囲
東京	2016/11/18	金	直訳の範囲
東京	2016/12/17	土	特許日英翻訳のよくある間違い(英文ライト実例集)
東京	2017/1/21	土	特許英語マスターシリーズⅢ 前置詞
大阪	2017/2/17	金	特許英語マスターシリーズⅢ 前置詞
大阪	2017/2/18	土	特許英語マスターシリーズⅣ 形容詞・副詞・接続詞(仮称)
東京	2017/3/10	金	特許英語マスターシリーズⅣ 形容詞・副詞・接続詞(仮称)

詳細は弊社ホームページをご覧ください。

<http://www.transprime.co.jp/contents/seminar/>

まだ受付を開始していないものもございますが、随時更新して参ります。

7. 翻訳サービスのご案内

化学（含むバイオ）・機械・電気の全技術分野に対応しております。翻訳の質には絶対的な自信を持っております。これまでの翻訳に満足されない方は是非当社の翻訳サービスをご利用ください。気軽にご照会ください。

弊社ホームページアドレス

<http://www.transprime.co.jp/>

8. 編集後記

TransPrime Newsletter の第7号をお届けします。早いもので今年も残すところあと少しとなりました。今年には弊社にとって事務所移転を含め大きな変化を迎えた年でした。皆様におかれましてはいかがでしたでしょうか。

弊社の年末年始の営業は下記の通りです。

【最終営業】2015年12月29日（火）まで

【営業開始】2016年1月4日（月）より

来年もどうぞよろしくお願い致します。

TransPrime Newsletter をさらに充実させるため、内容についてご希望・ご意見がありましたら info@transprime.co.jp まで、ご連絡ください。

バックナンバーは当社ホームページの【TransPrime Newsletter】コーナー <http://www.transprime.co.jp/contents/transprime-news-letter/> からご覧になれます。バックナンバーのメール送付を希望される方はご連絡下さい。